

# 個人視察報告書

ネットワークみらい 宮邊和弘

【視察日】 5月28日  
【視察先】 神奈川県 藤沢市  
【視察項目】 スクールロイヤー制度について

## 【所感】

全国的に学校職場で問題になっている、いじめや不登校、保護者対応など学校に関わる諸問題については、年々高度化、複雑化してきており法的な対応が必用になる事案が増えてきています。藤沢市では2022年から教育委員会に弁護士資格を持つ職員（スクールロイヤー）を配置している。子どもの最善の利益のために、学校で起こる様々な事案に対し法的根拠を持って中立的な立場で指導助言を行い、問題の未然防止、早期発見・早期対応を図っている。ロイヤーの役割として、学校担当指導主事の求めに応じ相談を受ける。

重大事態に係る対応、調査報告書の作成、研修の実施などを行っている。

成果としては、学校の法令等に基づく対応の強化、学校の組織としての対応力の向上、教職員の精神的な負担軽減、いじめ防止に係る取組（未然防止）などに繋がっている。

課題としては、事案の住み分けやSC、SSWなどとの連携、ロイヤーの中立性の確保などが有るとの事です。大分市に於いても、学校問題解決チームなど弁護士に意見を聞く機会はありますが、直接問題に対応することは出来ません。大分市に於いてもスクールロイヤー制度を導入する事は可能だと思います。子どもの最善の利益のために今後も調査・研究を続け早期の導入に向け取り組んで行く必要があります。

【視察日】 5月29日  
【視察先】 秋田県 秋田市  
【視察項目】 秋田市高齢者コインバス事業について

【所感】

秋田市に於ける高齢者バス事業についてICカードを導入して運用している状況について視察を行いました。

秋田市では現在65歳以上の高齢者の方を対象に市内の路線バス及び秋田市マイタウン・バス（コミュニティバス）を1乗車100円で利用できる「秋田市高齢者コインバス事業」を導入している。令和4年3月に秋田中央交通株式会社が、地域連携ICカード「Akica（アキカ）」のサービスを開始したことに伴い、コインバス事業の実施方法について、市が発行する「コインバス資格証明書」から、高齢者コインバス専用ICカード「シニアアキカ」に切り替えて事業を継続している。「シニアアキカ」は、全国共通の交通系ICカードの機能に「シニアアキカ」の機能を合わせて一枚のカードでバス会社のカードリーダーを利用でき初期投資はほとんど掛からず、問題無く移行出来たと言う事です。今では、高齢者も利用方法を理解しスムーズに運用が行われています。

課題としては、「シニアアキカ」の導入により利用実績の把握が可能となり、市の負担額の正当性は担保されたが、利用者の増加や100円を維持している事により市の負担金の増加が課題となっている。また、市外転出や死亡など利用対象事由が喪失した場合の返却案内を周知していく必要があるとのこと。

大分市の長寿応援バス事業については、高齢者ワンコインバス事業として一回のバス代を100円として事業が始まって以来、150円になり今年度バス代が150円から180円に引き上げられ利用者の負担が増している。

現在、交通系ICカードを利用するためのカードリーダーは、ほぼバス事業者によって整備されています。大分市でも以前の秋田市同様に、利用実績の把握が出来ておらず利用者に応じた負担金とするためICカード導入にむけた調査研究を行い早期に実現して行く必要があります。